

イグサ新品種「しらぬい」について

木下猛夫・*畠山誠一・**西島文敬・飯牟禮和彦

(熊本県農業研究センター・*熊本県農政部・**熊本県球磨農業改良普及所)

Takeo KINOSHITA, Seiichi HATAKEYAMA, Fumitaka NISHIJIMA and Kazuhiko IIMURE :
A New Cultivar of Mat Rush "Shiranui"

熊本県におけるイグサ主要品種は、1951年から県奨励品種に採用されている「岡山3号」で作付面積の約8割を占めている。この「岡山3号」は栽培し易い品種として早刈栽培から普通刈栽培まで極めて広範囲に作付されている。しかし、普通刈栽培における「岡山3号」は、曇表の色沢に大きな影響を及ぼす変色茎が多く発生するため、変色茎が少ない普通刈品種が望まれていた。い業研究所ではこの期待に応え、優良品種「しらぬい」を育成したので、その育成経過と特性概要を報告する。なお、本品種の育成にあたって、地域適応性試験に種々高配をいただいた関係普及所と現地農家各位に深く謝意を表す。

1. 来歴及び育成経過

1963年に「さざなみ」の自然交雑種子を採種し、'66年にその選抜実生の自然交雑種子を再び採種した。この実生を供試して'67年から個体選抜、系統選抜、生産力検定の各試験を実施し、'75年には「熊本2号」の系統名を付け、以後現地及びい業研究所内において適応性試験を実施した。'89年に「しらぬい」として熊本県奨励品種となり、'90年には種苗登録品種となった。

2. 特性の概要

1) 形態的特性

「岡山3号」と比較して、分けつ、長茎(105cm以上)着花率はやや多く、茎長、先枯長、枯死茎数は同程度である。生茎色は「さざなみ」に似た緑色を呈する。

2) 生態的特性

「岡山3号」と比較して、5月以降の茎の分けつが旺盛な晩生品種であり、収量性は特に長茎重が優れる。

3) 品質

「岡山3号」と比較して、先枯歩合、1m茎重、茎の太さ、茎の硬度は同程度で、茎の太さの整否(C.V.)はやや低い。とくに変色茎が少なく、曇表にした場合の色沢が良好である。茎の加工適性は中細で良く揃い、充実が良いので、上級の曇表原料として好適である。

3. 適用地帯

熊本県全域の一般田で、特に変色茎の発生が多い沿岸部の砂質干拓土壌での品質向上が期待できる。

4. 栽培上の注意

良質の特性を発揮させるため、収穫は7月10日以降とし、早刈栽培は行わない。

早植えや過度な初期生育の促進は品質を低下させるので避ける。

第1表 株当たり茎数の推移

月日	2		3		4		5		6		7
	1	15	1	15	1	15	1	15	1	15	1
しらぬい	14	18	24	34	57	80	106	125	164	186	178
岡山3号	14	18	24	35	55	79	102	117	159	175	166

注) 11月25日植付・7月10日収穫、1984~'87の平均値

第2表 しらぬいの特性概要^{a)}

形 質	しらぬい	岡山3号	さざなみ	
個体調査 ^{b)}				
茎長(cm)		152	152	159
先枯長(cm)		2.8	2.9	3.3
有効茎数(本/株) ^{c)}		147	143	132
枯死茎数(本/株)		6	6	5
長茎数(本/株)		92	90	88
長茎花序着生率(%)		1.8	1.2	5.6
収量調査(泥染め乾燥茎) ^{b)}				
有効茎重(kg/a) ^{c)}	151.6	147.8	151.7	
長茎重(kg/a)	113.0	108.4	116.0	
特性調査(泥染め乾燥長茎) ^{b)}				
先枯歩合(%)	0.1	0.1	0.2	
1m茎重(g/100本)	33.5	33.4	36.7	
茎の太さ(mm)	1.28	1.27	1.35	
太さの整否(C.V.:%)	9.4	9.7	9.5	
硬 度(%)	90.9	91.1	92.1	
変色茎発生率(%) (無染土乾燥茎) ^{d)}				
105~120cm	39.4	59.9	—	
120cm ≤	33.7	67.0	—	

注) a) 12月中旬植付・7月中旬収穫。b) 1973~'85の平均値

c) 有効茎: 60cm以上の茎。d) 1981~'83の平均値